

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	東九州支部	(2) 記載者氏名:	飯田 勝之	会員番号:	10912	事務局整理記入欄	東九州 - 18
分水嶺区分	県漁連植樹広場～K070弁天台～K069水分峠	(3) 山行日:	2004年	8月	29日	(4) 天候:	暴風雨

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

西 孝子	8325						
飯田勝之	10912						
中野 稔	13997						
田所歳明朗	14024						
計				4 名			
計				名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	通称:九州横断道路ヤマナミハイウエーという観光道路(県道別府・一宮線)が稜線を縫うように走っているところで、稜線鞍部から水分峠までの間。												
アプローチ:	県道脇から車を乗り入れた地点が分水嶺稜線で、終了地点は国道の峠である。双方に車を置いて踏査。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	県漁連植樹広場	湯平	131	17	22.4	33	14	21.6	748		6:50	B-1	
分水嶺到達点	県漁連植樹広場												
	814mピーク	湯平	131	17	29.0	33	14	30.2	819	7:10		B-2	
	県道	湯平	131	17	8.6	33	14	41.1	776	8:05		B-2	
K070	弁天台	湯平	131	17	9.5	33	14	48.6	817	8:40	8:50	B-3	
分水嶺離別点K069	水分峠												
歩行終了点	水分峠	湯平	131	17	41.3	33	14	58.6	711	9:55		B-2	
総歩行時間(休憩時間を除く):											2時間30分		

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
K070	弁天台	3	正確	完全	「芝塚」という山頂標あり

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

県道11号線(別府・一宮線)(通称:九州横断道路ヤマナミハイウエー)が分水嶺稜線を通過している

(9) 水および植生に関連した特記事項

踏査開始地点は広い平らな稜線の鞍部で、県漁協の統合合併記念植樹広場となっていて、カエデやサクラなどが植えられている。

(10) その他の特記事項

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:	芝塚の三角点

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

台風6号が九州へ近づ中(翌日午前9時に鹿児島県川内市に上陸)、4名の有志は釜が瀬山へ向かうべく、国道210号線を日田へ向かってた。しかし途中で、この悪天候の中を予定通りの猛烈なブッシュのコースに行くのは暴挙だということで取りやめ。さりとてここまで来て無為に引き返すのもJAC会員としての誇りが許さない。そこで急遽決まったコースが水分峠だ。水分峠から野稻岳の中間を起点として水分峠に戻るルートが、イメージの中で決まった。

予定外のルートであったため、誰も地図など持っていない。しかし、県道11号別府・一宮線(九州横断道路)に沿った浅いヤブ山だ、たいしたことはないまいと決め込む。

一台を水分峠に置き、もう一台で踏査開始地点に向かう。水分峠から約3kmほど野稻岳に向かったところの、県道沿いに低い鞍部がある。県漁協の記念広場で「大分水分ふれあいの森」「漁民の森」などのプレートがありロープが張ってあった。ここに車を置いて、雨具をつけ、7時15分に出発する。嵐はまださほどではないがかなり激しい雨が大地を包んでいた。最初は古い林道の跡があったが、すぐにヤブになった。カヤを分け、ササを分けていくと、30分で標高点813mの地点に着く。西北西に270mくらい行くと2つ目のピークに着くが、その辺から北へ行かねばならない所だ。

7時55分ごろ広い平らな頂に着いた。絶えず車の音がして、県道に近いことが分かる。向かうべき方角に見当をつけて下っていくと道路に出たが、そこは県道が稜線を越える地点から200mほど手前であった。少しばかり分水嶺からそれたことになる。県道を行くと分水嶺を県道が越している地点に着く。そこからススキと雑木をかき分けて稜線にとりつき、猛烈なカヤを分けながら登る。激し雨に打たれながら、急斜面の猛烈なカヤのブッシュを登りつめるとヒノキ林の稜線についた。左(北西)に緩く少し登って行くと小ピークに着いた。そこには三等三角点があり「芝塚」と書かれた山頂標識があった。810.3m地点だ。8時45分到着。

ここから少し引き返し気味に東に行くべき所であるが、地図を持たずにヤマ感でまっすぐに稜線をたどって行ったのが間違い。はっきりした地形の稜線で、なぜか踏み跡もしっかりついている。

薄暗いスギやヒノキの造林地は歩きやすく、どんどん進んで行く。次第に高度が下がるにつれ高速道路の音が近くなり、なぜかGPSの示す水分峠が遠くなっていく。向かう方向がなぜか北西だ、??、このあたりでやっ進むべき方角が間違っているのに気づく。登り返すのが面倒と、山腹をトラバースしかけるがとんでもない遠回りに気づき、稜線を途中まで戻っては北向きに軌道修正しつつ下るが、また間違いに気づく。トラバースしかけるがこれもまた遠回り。仕方なしに振り出しに戻るべく、ふうふう言いながらもと来た稜線を登り返す。

約1時間かけて造林地の中を彷徨したあげくに、やっ芝塚の三角点に戻る。正確には芝塚の三角点は分水嶺から少し筑後川流域に入ったところにあるのだ。

そこから東に向かって下る。すると少し下ると県道のすぐ脇の鞍部である。ここを通過し、高速道路のトンネルの上を通過して稜線をたどると、10時前に水分峠の掘り割り上に到着だ。



芝塚の三角点